

平成24年度 土地月間参加講演会 『都市農地と被災地支援』開催報告

(財)都市農地活用支援センターは、平成24年10月31日、東京都渋谷区神宮前の東京ウィメンズプラザホールで土地月間参加行事の一環として「都市農地と被災地支援」をテーマとした講演会を開催しました。本講演会は定期借地権推進協議会が協賛、国土交通省、全国農業協同組合中央会（JA全中）の講演を受け、約120名の出席者の好評を博しました。

講演会は、先ず同センターの角地徳久理事長が主催者挨拶を行った後、第1部として、松下潤芝浦工業大学教授(工学博士)が、「東日本大震災被災地の復興計画と地域経済活性化」と題して講演をしました。松下教授は、「三陸地方の被災地は小規模な河川流域が連坦する分散型地域構造のなかで、高齢化と人口縮減が同時に進行している。津波被災は、このような地域の問題をさらに深刻化させる可能性が高い。小流域圏単位でコンパクト、かつ経済的にも活力のある地域として再生する必要がある。」強調しました。次いで佐藤啓二同センター理事が同センターで推進する「農を楽しむ サービス付き高齢者向け賃貸住宅モデルプロジェクトと普及・促進の取り組みについて紹介と事業実施にかかる情報提供を呼びかけました。

第2部の講演は、大木祐悟定期借地権推進協議会運営委員長が、「震災復興に際しての定期借地権利用の考え方」と題して講演。大木氏は、東日本大震災において、その復興について定期借地権の利用を主張する意見が出ている中で、今回は、定期借地権にかかる実務者の立場から、震災復興に際して定期借地権の利用法について具体策を提示しました。



講演を熱心に聴く参加者



松下 潤
芝浦工業大学教授



大木祐悟
定借協運営委員長